

## 背景・目的

空知森林管理署北空知支署では、地域に根ざした森林環境教育として、平成15年度から「遊々の森」協定による国有林をフィールドとして地域の小学生に森林の働きやその重要性、そして国有林の役割等に対する理解を深めてもらうために森林教室を実施してきました。これまでの活動紹介と今後の課題などについて考察しました。

## 取り組みについて

現在は、幌加内小学校（3，5年生・各年1回）と朱鞠内小学校（全学年合同・年4回）で森林環境教育を行っています。身近な山々の四季の変化を取り入れた内容で実施しており、子供達は森林環境教育を通じ、間近で見て・触って体感したことや、樹木や動物・昆虫など、森には多くの生き物が棲み、それぞれに特徴や役割があることや、地域の森林の大切さや自然を守ることについて学ぶ良い機会となっています。



このような森林環境教育での取り組みについて、朱鞠内小学校では平成29・30年度に学校林や遊々の森などでの体験活動及び教育活動の交流・情報発信などを目的とした「学校の森・子供サミット」や地元の広報誌において、「遊々の森」で学んだ事を学校一丸となって継続的に発表しています。

このような取組みが認められ、平成30年5月に北海道森林管理局長より「国民の森づくり感謝状」が贈呈されました。

一方、森林環境教育を実施する中で、「高学年に対しては、森林・林業等について幅広い知識を取り入れることで学習への関心が深まるのでは」との感想もいただいています。

また、北空知支署では地域に根ざした取り組みとして、管内の市町で開催されたイベントにおいて木工教室などを行い、木や森林に興味を持ってもらえるよう、森林環境教育（木育）のPRに努めています。



## まとめ

地域の恵まれた自然を題材とした森林環境教育に取り組んできたことにより、森林の生態系や働きに関する子供たちの理解向上に大きく貢献していることから、更に充実した森林環境教育や木育活動に協力していくと共に、小学校の教科書で学習する内容と関連付けた森林環境教育を行うなど、学年に応じた細やかなプログラムも導入することでより効果的な内容とする必要があります。

